

沼津市立地適正化計画（案）に関する意見募集の結果について

沼津市立地適正化計画(案)について、パブリックコメントを実施したところ、貴重なご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。いただいたご意見、市の考え方、計画への反映は、下記のとおりとさせていただきます。

1. パブリックコメントの実施状況

- 実施期間：平成30年12月14日(金)～平成31年1月15日(火)
- 提出者数：3名
- 意見数：3件

2. 提出された意見及び市の考え方

No.	意見(概要)	意見に対する考え方	修正の有無
1	<p>・現在では子持川、観音川、沼川等で、ごく少数のシラスガが目撃されているが、シラスガの数を常時確保できれば、観光案内に役立つと考える。</p> <p>・特に、川を清掃し、水草やシラスガの餌となる小動物が生息し易い環境を保全すること、餌となるドジョウやフナ等を放流すること、地域の人々の協力を得てシラスガの写真を投稿するためのホームページを開設することを提言する。</p> <p>・「歩いて楽しい中心街」というのは、伊豆観光をする行き帰りの時に沼津を通り過ぎないで、電車でもバスでもマイカーでも、一旦沼津で降りて、沼津駅周辺から港湾辺りまでを散歩して観光を楽しんでほしいという趣旨と受け止めている。このため、散歩に値する観光の目玉を一つでも増やすべき。</p>	<p>○子持川や観音川においては、当流域の住民で組織する「子持川水系をきれいにする会」と河川管理者である静岡県及び沼津市により、河川美化に努めているところです。また、沼津の観光資源を紹介するため、「インスタグラムキャンペーン」、「ぬまづの宝100選」や「沼津観光ポータル」など、写真投稿のイベントや美しい写真を紹介するホームページの開設等に取り組んでおります。</p> <p>○ご意見のとおり、立地適正化計画では、中心市街地の方針として「歩いて楽しいまちづくり」を掲げ、観光客も含め、広域から「ヒト・モノ・コト」を引き込むことを意識したまちづくりを進めていくこととしており、いただいたご意見を参考にしながら、観光地としての魅力づくりに取り組んでまいります。</p>	無
2	<p>・「沼津駅の3kmの圏域に人口の約6割が集中」しているほど、人口密度の偏りがあるなら、市の中心地へのアクセシビリティの向上の意味に疑問が生じる。むしろ、人の移動アクセスよりも、各種機能を圏外地域へ分散させる方が、住民にとって有効。</p> <p>・同じ機能を郊外の大型店舗に遍在させ、駐車料金を心配せずに買い物等を楽しめる環境が、住民にとり明らかに有効だと思う。中心地の機能は、沼津駅から3km圏内の住民のみの利便を整えればよく、その圏外、郊外の住民のためには各種機能とサービスは「分散させる」方が住民にとりメリットがあると考え。</p> <p>・ただし、県外からの観光・訪問客は別で、新幹線三島駅から沼津駅まで、沼津駅から沼津港までなど、公共交通手段の利便性の向上は、最重要課題である。幹線道路が整備されつつあるが、中心地へのアクセスが整ったとしても、ほんの少しの買い物をするにも駐車料金がかかる今のままでは、沼津を素通りする懸念は払拭できない。</p>	<p>○本市では、市民の皆さんが日常生活で活動する中学校区をベースにした18のコミュニティを大切にし、日常生活に必要な機能が生活圏ごとに配置された「生活圏のまちづくり」に取り組むこととしており、医療・福祉などの生活利便施設は、一定の区域に集約するものではなく、日常生活圏ごとにバランス良く配置(分散)されるべきものと考えております。</p> <p>○一方、人口の急激な減少と高齢化が進展する中でも、健康で快適な生活環境と持続可能な都市経営を実現するためには、コンパクト・プラス・ネットワークの考えのもと、まちづくりに取り組むことが重要だと考えております。</p> <p>○沼津駅を中心とする概ね3km圏は、本市の人口の約6割が集中するとともに、多様な都市機能が集積し、市全体の活力を支えており、第4次沼津市総合計画では「都市的居住圏」と位置付けられています。また、第2次都市計画マスタープランにおいても、「都市全体の活力を牽引する「都市的居住圏」の利便性の向上」を掲げており、都市的居住圏は、本市の都市構造上の中心であることから、立地適正化計画では、都市的居住圏への「ヒト・モノ・コト」の引き込みを指向し、市内だけではなく、市外からの利用も見込まれる施設を誘導施設として位置付けます。</p> <p>○このことで、生活圏のまちづくりを重視しつつ、ライフスタイルに応じたメリハリのある土地利用を実現し、人口減少社会に対応する「持続可能なまちづくり」に取り組めます。</p> <p>○また、いただいたご意見を参考にしながら、公共交通ネットワークの再構築や沼津駅のバス・タクシーターミナルの再整備の検討など、今後も公共交通の充実に取り組んでまいります。</p>	無
3	<p>・現状と課題について、実態整理はできているが、その原因が何か要因分析されていないので、今後の対応の具体性が乏しくなっている。シンプルに、「近隣市町に対して、沼津市のみ人口減少なのはなぜか。」の要因分析を徹底すべき。</p> <p>・沼津市の強み、弱みの視点で、もっと具体的に洗い出したらどうか。そのうえで、今後の対応を具体的にし、将来の目指す方向の核(目玉)を明確にすべき。どういう都市なら広域拠点都市として存続できるのか。核になる産業を明確にしたシナリオが必要だと考える。</p>	<p>○将来都市像と都市計画の方針を示す都市計画マスタープランにおいて、現況・課題の掘り下げを行っており、人口や産業の動向に大きな影響を及ぼしたのは、人口減少などの全国的なトレンドに加え、東日本大震災以降の津波への懸念、新たな交通基盤による立地優位性の低下等にあると考えております。</p> <p>○こうした現況・課題を踏まえ、都市計画マスタープランでは、「社会情勢の変化に対応するまちづくり」の中で、広域拠点都市として存続するために「中心市街地と各拠点の連携」や「沼津駅周辺整備を中心とした中心市街地のまちづくり」を位置付けています。</p> <p>○また、都市計画マスタープランでは、「新たな交通基盤を活かしたまちづくり」として、東名・新東名高速道路や東駿河湾環状線を活かした産業立地の促進を位置付けております。県のファルマバレープロジェクトとの連携や、市の新たな発展を主導する産業の誘導等を目指し、施策を推進する具体的エリアにおいて産業立地の促進に取り組んでまいります。</p> <p>○立地適正化計画においては、個性や魅力の異なる様々な拠点について、具体的に都市機能を誘導する区域と施策を明確にすることで、市内だけでなく市外からも「ヒト・モノ・コト」を引き込むとともに、各拠点をネットワークで繋ぎ、「ヒト・モノ・コト」の移動や交流を促すことにより、拠点ごとのまちづくりの効果を相乗的に高めていきます。</p>	無